

## < 関東信越 > 木更津工業高等専門学校

\*\*\*\*\*断り\*\*\*\*\*

図や一部文章は当該高専 HP 及び当該高専が作成する資料より引用

木更津工業高等専門学校 HP : <http://www.kisarazu.ac.jp/>

キャンパスガイドブック :

[http://www.kisarazu.ac.jp/wp-content/uploads/2020/06/campusguide2021\\_web.pdf](http://www.kisarazu.ac.jp/wp-content/uploads/2020/06/campusguide2021_web.pdf)

学校要覧 2020 :

[http://www.kisarazu.ac.jp/wp-](http://www.kisarazu.ac.jp/wp-content/uploads/2020/08/6a7bebc9bff895d0ae29927933622309.pdf)

[content/uploads/2020/08/6a7bebc9bff895d0ae29927933622309.pdf](http://www.kisarazu.ac.jp/wp-content/uploads/2020/08/6a7bebc9bff895d0ae29927933622309.pdf)

生産システム工学プログラム履修手引き :

(準学士過程 4 年)

[http://www.kisarazu.ac.jp/wp-](http://www.kisarazu.ac.jp/wp-content/uploads/2020/02/4a5d72fab289d14e981a6eee7fe62258.pdf)

[content/uploads/2020/02/4a5d72fab289d14e981a6eee7fe62258.pdf](http://www.kisarazu.ac.jp/wp-content/uploads/2020/02/4a5d72fab289d14e981a6eee7fe62258.pdf)

(専攻科過程第 1 学年)

[http://www.kisarazu.ac.jp/wp-](http://www.kisarazu.ac.jp/wp-content/uploads/2020/01/98ecd1bf500818a5b132a3d9f874d39e.pdf)

[content/uploads/2020/01/98ecd1bf500818a5b132a3d9f874d39e.pdf](http://www.kisarazu.ac.jp/wp-content/uploads/2020/01/98ecd1bf500818a5b132a3d9f874d39e.pdf)

\*\*\*\*\*

\*アクセス(図 1 は学校要覧 2020 より引用)

〒292-0041 千葉県木更津市清見台東 2-11-1



図 1 アクセスマップ

\*特色(一部文章及び図2は木更津工業高等専門学校HPより引用)

- ・1967年の創立以来、現在まで7700名を超える本科卒業生・専攻科修了生がいる
- ・本科は機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、情報工学科、環境都市工学科の5学科編成である
- ・専攻科は機械・電子システム工学専攻、制御・情報システム工学専攻、環境建設工学専攻の3専攻編成である

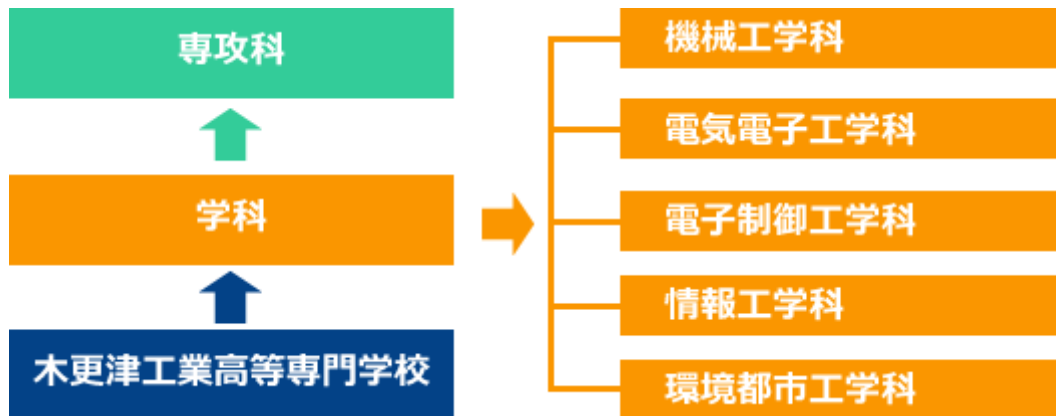


図2 学科編成

- ・木更津高専は、2016年6月にCDIOへの加盟が認められている。CDIOとは2000年に米国のマサチューセッツ工科大学(MIT)とスウェーデンの3大学が革新的な工学教育のフレームワーク作りとして始めたもので、知識偏重ではなく、「知識」と「スキル」のバランス、「エンジニアリングサイエンス」と「実践・スキル教育」のバランスを重視した質の高い教育を目指すものである。このフレームワークは、現実世界のシステムや製品開発に必要な一連の能力 **Conceive** (考え出す)、**Design** (設計する)、**Implement** (実装する)、**Operate** (操作・運営する)の基礎教育を学生に提供し、工学教育において何をどう学ぶかが、シラバスやスタンダードとして示されている。

\*JABEEへの取り組み(一部文章および図3は木更津工業高等専門学校HPより引用)

本科4年次から専攻科2年次まで4年間一貫の「生産システム工学」教育プログラムを設定し、国際化に対応できる技術者教育を行っている。本教育プログラムは、最も得意とする専門分野の知識と能力を身につけ、さらに異なる技術分野を理解し、両分野の知識を複合させる能力を身につけることを目的としており、具体的には、本科で開設されている機械工学、電気電子工学、電子制御工学、情報工学、環境都市工学のうち、いずれか1つの専門分野を学修して、さらに他専門分野の科目を学修する。

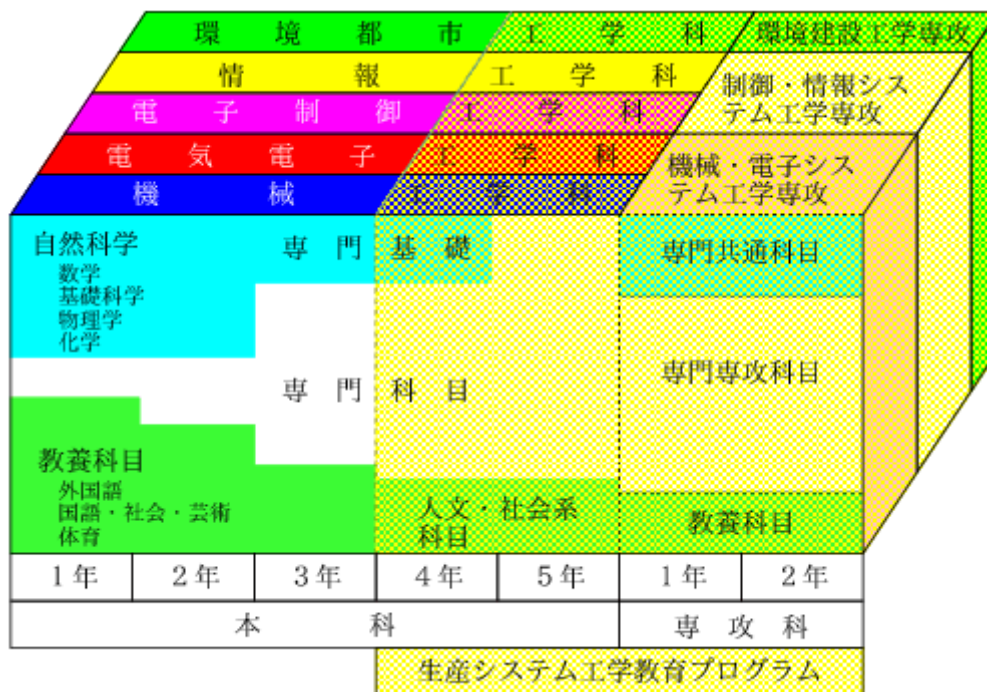


図3 「生産システム工学」教育プログラムの概念図

#### 育成すべき技術者像

「生産システム工学」教育プログラムでは、次のような技術者の育成を目指している。

養成すべき技術者像：自主自立の精神と国際的視野を持ち、以下の知識及び能力と実践力を備え、他者と共同して社会に貢献できる開発研究型の技術者

1. 複合領域の知識を結び付ける研究・開発能力
2. 国際化や高度情報化に柔軟に対応できる基礎能力
3. 技術者としての社会的責任と倫理の自覚

#### 学習・教育到達目標

「生産システム工学」教育プログラムでは、3で示した技術者を育成するために (A)～(D)の学習・教育到達目標を設定している。

##### (A)人間形成

健康な身体と精神を培い、社会に貢献するすぐれた人間として、幅広い教養をもとに、技術者としての責任を自覚し、その使命を実行しうる技術者。

- (A-1) 豊かな人間性と健康な心身を培う。
- (A-2) 技術が自然や社会に及ぼす影響・効果を理解し、技術者としての責任を自覚する。

##### (B)科学技術の修得と応用

自らの専門とする科学技術についてその基礎となる理論および原理を十分に理解し、境界領域にもすすんで活躍しうる技術者。

- (B-1) 数学および自然科学の基礎知識とそれらを用いた論理的思考能力を身につける。

- (B-2) 最も得意とする専門分野の知識と能力を身につける。
- (B-3) 異なる技術分野を理解し、得意とする専門分野の知識と複合する能力を身につける。
- (B-4) 実験・実習を通して実践的技術を身につける。

### (C)コミュニケーション能力

国際化および高度情報化社会に柔軟に対応し、自らの考えを状況に応じて的確に表現しうる技術者。

- (C-1) 日本語の記述能力を身につける。
- (C-2) 情報技術を使いこなし、日本語による発表・討論ができる能力を身につける。
- (C-3) 国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身につける。

### (D)創造力

自ら工夫し、また他者と協調して新しいものを造り出す研究開発型の技術者。  
卒業研究や専攻科特別研究などを通して、以下の能力を身につける。

- (D-1) 問題解決のために修得した専門知識を応用できること。
- (D-2) 創意工夫し問題解決のための計画の立案・実行、得られた結果の考察および整理ができること。
- (D-3) チームの中で他のメンバーと協力しながら、問題解決に向けた適切な行動をとれること。

### 本教育プログラムの履修生

本校の「生産システム工学」教育プログラムは、教育年限の設定を本科4年次から専攻科2年次までの4年間としていることから、3年次にこのプログラムの紹介と履修の手引の配布を行い、本科を卒業して専攻科に入学した者を「生産システム工学」教育プログラムを履修することができる者としている。履修者の決定は入学時に行い、入学者全員が履修者となることを希望している。本校の専攻科に入学できる者は、本校の学則第40条に専攻科入学資格として規定されていて、次の者が含まれている。

- 高等専門学校を卒業した者
- 短期大学を卒業した者
- 専修学校の専門課程を修了した者のうち、学校教育法第82条の10の規定により大学に編入学することができる者
- 外国において、学校教育における14年の課程を修了した者
- 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における14年の課程を修了した者
- その他本校専攻科において、高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

この「1. 高等専門学校を卒業した者」の中には、本科5年を卒業後そのまま専攻科に進学する場合の他に、本科5年卒業後就職し、その後社会人選抜により専攻科に入学す

る場合などがある。したがって、本科 5 年卒業後就職を希望する本校の本科学生も「生産システム工学」教育プログラムを履修する可能性を持つこととなる。

また、本科 5 年卒業後大学への編入学を目指している本校の本科学生は、編入学先の大学が設定する技術者教育プログラムの履修対象者となる可能性が極めて大きいことを十分承知しておく必要がある。もちろん、本科 5 年卒業後一旦就職し、その後大学へ編入学する場合も、同様に編入学先の大学が設定する技術者教育プログラムの履修対象者となる可能性が極めて高くなる。

したがって、本科の学生諸君は、各々が技術者教育プログラムの履修対象者となる可能性を持っていることを自覚しておく必要がある。

#### **生産システム工学」教育プログラムの修了要件**

「生産システム工学」教育プログラムの修了者とは、以下にあげる要件を全て満たした者とする。

1. 本校専攻科の課程を修了し、学位（学士）を修得していること。
2. 「生産システム工学」教育プログラム 履修の手引の「4.科目構成」に掲げられてた科目で 124 単位以上修得していること。
3. 「(3)基礎工学の知識・能力科目」について、その内容は
  - (3-1)設計システム系科目群
  - (3-2)情報・論理系科目群
  - (3-3)材料・バイオ系科目群
  - (3-4)力学系科目群
  - (3-5)社会技術系科目群

の 5 群からなり、各群から少なくとも 1 科目、合計 6 科目以上を修得していること。

「生産システム工学」教育プログラム 履修の手引の表 1 に示す「各学習・教育目標の達成度評価対象とその評価方法および評価基準」をすべて満たしていること。

→手引きを参照していただきたい

#### **\*アドミッションポリシー(入学者受け入れ方針) (一部文章は木更津工業高等専門学校 HP より引用)**

(当該高専本科共通)

以下に示す「求める学生像」に適した者を、「入学者選抜の基本方針」に沿って、国内外から広く受け入れる。

求める学生像

1. 数学や理科などの理数系科目が得意で科学技術及び英語など外国語にも興味・関心が

ある人

2. 自ら考え、様々な課題に意欲を持って取り組む実行力を身に付けたい人
3. 社会のルールを尊重し、学業や課外活動、学校行事などの学生生活を積極的に送ろうとする人
4. コミュニケーション能力と協調性を有し、指導的立場に立つ技術者として社会の発展に貢献したい人

(機械工学科)

機械工学に興味や関心があり、自ら考え、機械工学に関連するさまざまな課題に意欲を持って取り組みたい人

(電気電子工学科)

電気電子工学に強い興味をもち、学習意欲が旺盛である人

(電子制御工学科)

電子工作、機械工作、プログラミングなどのものづくりに興味があり、ロボット技術のように制御、電気電子、機械、情報処理などの技術を融合した知識を身につけたい人

(情報工学科)

計算機ハードウェア・ソフトウェア技術や情報通信技術に関心のある人

(環境都市工学科)

- ・自然と人とのかかわりに興味を持ち、自然環境の保全や防災についての理解を深めたい人
- ・社会に役立つ社会基盤施設の設計や建設について学びたい人

(当該高専専攻科)

木更津工業高等専門学校の専攻科では、以下に示す「求める学生像」に適した者を、「入学者選抜の基本方針」に沿って、国内外から広く受け入れる。

求める学生像

1. 専門とする技術分野の基礎学力と工学的素養を備えている人
2. これまで修得した専門分野以外の幅広い工学分野への興味(好奇心)を持っている人
3. より高度な技術課題と先端的な理工学研究課題に取り組むことのできる基礎能力を身に付けたい人
4. 技術者として社会的責任を自覚し、他者と共同して我が国や国際社会に貢献する

意欲を持った人

\*入試形態

(当該高専本科)

学力選抜、推薦選抜、帰国子女選抜、4年次編入学

(当該高専専攻科)

学力選抜、推薦選抜、社会人特別選抜

\*試験状況及び偏差値や倍率(表 1、3、表 4 一部は木更津高専 HP、表 2 はキャンパスガイドブックより引用)

(当該高専本科)

表 1 各学科の入試形態ごとの募集定員

学科名	入学定員	うち、推薦入学者
機械工学科	40名	20名程度
電気電子工学科	40名	20名程度
電子制御工学科	40名	20名程度
情報工学科	40名	20名程度
環境都市工学科	40名	20名程度

表 2 令和 2 年度の出願者数及び合格者数

	機械工学科	電気電子工学科	電子制御工学科	情報工学科	環境都市工学科	計
募集人員	40	40	40	40	40	200
推薦志願者数	41	36	43	70	70	260
志願者数計	51	50	63	95	77	336
推薦入学者数	20	20	22	22	22	106
学力入学者数	20	20	20	19	20	99
入学者数	40	40	42	41	42	205

機械工学科 (推薦)2.1倍 (一般)1.6倍

電気電子工学科 (推薦)2.0倍 (一般)1.7倍

電子制御工学科 (推薦)2.0倍 (一般)2.1倍

情報工学科 (推薦)3.5倍 (一般)2.4倍

環境都市工学科 (推薦)3.5倍 (一般)1.5倍

(当該高専専攻科)

表 3 令和 2 年度の募集人員

学科名	入学定員
機械・電子システム工学専攻	8 名
制御・情報システム工学専攻	8 名
環境建設工学専攻	4 名

表 4 令和 2 年度の出願者数及び合格者数

	機械・電子 システム工学		制御・情報 システム工学		環境建設工学	
	学力	推薦	学力	推薦	学力	推薦
	志願者数	10	8	11	8	2
受験者数	8	8	9	8	2	4
合格者数	6	8	6	8	1	4

\*ディプロマポリシー(卒業・修了認定方針) 一部文章は木更津工業高等専門学校 HP より引用)

(当該高専本科共通)

本校では、準学士の称号にふさわしい実践的・国際的エンジニアとして、以下に示す能力を身につけ、学則で定める修業年限以上在籍し、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

1. 自らの専門とする科学技術について基礎学力、基礎的な知識、関連する知識・技術、応用力を身につけて、それらを活用できる（応用的な問題の解決ができる）。
2. 修得した知識や技術をもとに各専門分野における問題発見、問題解決及びプレゼンテーションができる。
3. 豊かな教養と倫理観を身につけ、社会に貢献できる。

(機械工学科)

機械工学に関連する基礎学力、基礎的な知識や技術を修得し、それらを活用して問題を解決できる。



(電気電子工学科)

電気電子工学分野における基礎的及び専門的な知識・技術を修得し、その知識・技術を応用する力を身につける。

(電子制御工学科)

制御工学を中心として、電気電子、機械、情報処理などの基礎工学に関する幅広い知識を修得し、それらを応用できる。

(情報工学科)

情報技術を身につけた人。

(環境都市工学科)

構造工学、建設材料学、地盤工学、水工学、衛生工学、生態学、測量学、情報処理技術に関する基礎的な知識、技術、応用力を身につけ、活用することができる。

(当該高専専攻科)

木更津工業高等専門学校専攻科では、各分野の深い専門性に加え、学際的領域に関する素養を有した、質の高い創造的・指導的・国際的エンジニアとして、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構の学士認定資格を満たし、以下の能力を身につけ、学則で定める修業年限以上在籍し、所定の単位を修得した学生に対して修了を認定する。

1. 修得した各専門分野及び異なる技術分野の知識・技術をもとに、問題解決に必要な知識や技術を複合・融合的に応用できる。
2. 社会への技術の影響を配慮し、異なる専門領域を持つ国内外の人々やそれらのチームと協働して我が国や国際社会に貢献できる。
3. 自らの専門分野における工学の問題について、問題発見、創意工夫して問題解決、プレゼンテーションできる。

\*カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）（一部文章及び表 5、6 は木更津工業高等専門学校 HP より引用）

(当該高専本科共通)

木更津工業高等専門学校では、本校のディプロマポリシーに基づき、アドミッションポリシーに沿って入学した学生に対して以下のカリキュラム・ポリシーに則り教育を行う。

1. 低学年では、数学、物理、化学などの理系教養科目、及び英語、国語、歴史などの

文系教養科目を多く配置し、高学年では各専門科目が多くなるくさび形に授業科目を編成する。

2. 各専門科目について、基礎学力、基礎的な知識、関連する知識・技術、応用力が身につくようにバランス良く授業科目を編成する。
3. 自ら工夫して様々な課題に取り組み、社会に貢献できる総合的な能力を育成するために、アクティブラーニング、自主学习、実験・実習・課題研究・卒業研究を系統的に編成する。

#### (機械工学科)

力学、材料分野、熱流体分野、生産システム分野、計測制御分野を中心とした基礎的な機械工学に関連する幅広い知識や技術が身につくようにバランス良く授業科目を編成する。

#### (電気電子工学科)

電子・情報通信・コンピュータ・材料・計測・制御・電気機器・エネルギーなど、現代の高度化技術社会の基礎に係わる教育を行い、創造力が豊かで次世代の産業社会を担うことができるように授業科目を編成する。

#### (電子制御工学科)

創造的な技術開発ができる技術者を育成するため、制御工学を中心として、電気電子、機械、情報処理などの基礎工学に関する幅広い知識、技術と応用力が身につくようにバランス良く授業科目を編成する。

#### (情報工学)

情報処理の基本技術である計算機ハードウェアとソフトウェア技術を中心に、インターフェース技術・情報通信技術などの関連分野の知識を含めた、総合的な情報処理システムの知識が身につくように、授業科目を編成する。

#### (環境都市工学科)

自然科学、語学、文化、情報処理、測量学を基礎として、構造工学、建設材料学、地盤工学、水工学、衛生工学、生態学に関する専門科目を系統的に配置し、講義、演習、実験・実習、課題研究、卒業研究を組み合わせた授業を編成する。

学業の成績は、シラバスに基づき、科目担当教員が試験の成績、授業の出席状況及び平常の学習態度等を考慮して 100 点法によって評価する。

表5 本科成績評価基準

評定	評点	基準（到達レベル）
A	80点～100点	十分に満足できる到達レベル
B	70点～79点	標準的な到達レベル
C	60点～69点	単位取得可能な最低限の到達レベル
D	60点未満	単位取得不可の到達レベル

(当該高専専攻科)

1. 高専本科で修得した各専門の学力を基礎とし、異なる技術分野を理解して、さらに高度化・複合化した教育を行うために、英語関連科目、異なる技術分野の基礎科目、技術倫理、環境工学などの共通科目を編成する。
2. PBL教育やインターンシップを実施し、専門が異なる他者と協働することで広い視野とコミュニケーション能力を養成する。
3. 高専本科で修得した各専門について、より専門的な科目を編成し、各専門分野での高度な技術に関する理解を深める。
4. 特別実験と特別研究を系統的に編成し、問題発見、問題解決能力を有した研究開発型技術者を育成する。

学業の成績は、シラバスに基づき、科目担当教員が試験の成績、レポート等を考慮して100点法によって評価する。

表6 専攻科成績評価基準

評定	評点	基準（到達レベル）
A	80点～100点	十分に満足できる到達レベル
B	70点～79点	標準的な到達レベル
C	60点～69点	単位取得可能な最低限の到達レベル
D	60点未満	単位取得不可の到達レベル

\* 卒業後の進路状況（表7、8、9、10は木更津工業高等専門学校HPより引用）

表7 過去の本科卒業生の進学状況

大学名／卒業年度	平成27年度以前	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	合計
北海道大学	18				2	20
室蘭工業大学	8	1		1		10
北見工業大学	3					3
弘前大学	5					5
岩手大学	36					36
東北大学	18					18
秋田大学	35					35
山形大学	32					32
茨城大学	49		4	1		54
筑波大学	48	3			2	53
宇都宮大学	47	3	1			51
群馬大学	32		1			33
埼玉大学	12		1			13
千葉大学	275	5	4	3	3	290
東京大学	15					15
東京農工大学	99	2	1	1	2	105
東京工業大学	13		1			14
東京海洋大学	24					24
お茶の水女子大学	3					3
電気通信大学	76	2	2		2	82
横浜国立大学	12			1	1	14
新潟大学	26		2	1		29
長岡技術科学大学	389	9	11	11	12	432
富山大学	6				1	7
金沢大学	3					3
福井大学	16	2	1		1	20
山梨大学	69	4	2	1		76
信州大学	35	1		2	1	39
岐阜大学	11		1			12
静岡大学	6					6
名古屋工業大学	1					1
豊橋技術科学大学	228	6	8	7	10	259
三重大学	4			1		5
京都大学	5					5
京都工芸繊維大学	8	1				9
大阪大学	2					2
神戸大学	6	1				7
和歌山大学	7					7
鳥取大学	2					2
島根大学	4					4

岡山大学	2					2
広島大学	6					6
山口大学	8					8
徳島大学	3		1			4
愛媛大学	2					2
香川大学	2					2
高知大学	3					3
九州大学	8	1				9
九州工業大学	21			1		22
佐賀大学	5		1	1		7
長崎大学	6					6
熊本大学	7					7
大分大学	0	1				1
宮崎大学	2					2
鹿児島大学	4					4
琉球大学	8	1	3			12
その他の大学	243	11	13	6		273
合 計	2018	54	58	38	37	2205

表 8 過去の専攻科卒業生の進学状況

進学先 / 修了年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
東北大学大学院	2					1	
宇都宮大学大学院				1			
筑波大学大学院	7	4	4		5	8	13
埼玉大学大学院					1		
千葉大学大学院	2	1	4			1	1
東京大学大学院			1	1	2	2	1
東京工業大学大学院	1				5	2	2
東京医科歯科大学大学院						1	1
電気通信大学大学院		1	2		1	1	1
横浜国立大学大学院		1	3	1		1	1
長岡技術科学大学大学院			1			1	
信州大学大学院						1	
豊橋技術科学大学大学院		2					1
岐阜大学大学院			1				
九州大学大学院							1
北陸先端科学技術大学院大学				1	2		
産業技術大学院大学	1			1			
青山学院大学大学院				1			
慶應義塾大学大学院			1	4	4	3	1
早稲田大学大学院	1						
情報セキュリティ大学院大学					1	1	
計	14	9	17	10	21	23	23

表9 令和元年度の本科卒業生の就職状況

機械工学科		電気電子工学科		電子制御工学科		情報工学科		環境都市工学科	
ANA ラインメンテナンステクニクス (株)	2	ANA ラインメンテナンステクニクス (株)	2	(株) JAL エンジニアリング	1	(株) Lei Hau'oli	1	NTT インフラネット (株)	1
(株) JAL エンジニアリング	1	(株) NHK テクノロジーズ	1	KDDI エンジニアリング (株)	1	(株) MBM	1	(株) 協和コンサルタンツ	1
(株) JR 東日本メカトロサービス	1	アイング (株)	1	(株) NTT 東日本-南関東	1	(株) SUBARU	1	キリンエンジニアリング (株)	1
JXTG エネルギー (株)	1	味の素食品 (株)	2	(株) SUBARU	1	(株) ZEST	1	(株) 駒井ハルテック	1
SUBARU テクノ (株)	1	出光興産 (株)	1	SUBARU テクノ (株)	1	アイ・システム (株)	1	(株) ザイマックスアルファ	1
旭化成 (株)	1	(株) エヌ・テイ・テイ・エムイー	1	株式会社 Y2S	1	(株) アイヴィス	1	(株) 太平洋コンサルタンツ	1
出光興産 (株)	4	サッポロビール (株)	1	旭ダイヤモンド工業 (株)	1	(株) アクティブ・ワーク	1	(株) 竹中土木	1
(株) 荏原製作所	1	三愛ケミカル (株)	1	池上通信機 (株)	1	イー・アンド・エム(株)	1	千葉窯業 (株)	1
キヤノン (株)	1	サントリースピリッツ (株)	2	(株) オプティム	1	岡三情報システム (株)	1	東海旅客鉄道 (株)	2
(株) クボタ	1	サントリービール (株)	1	キヤノン (株)	1	キヤノンメディカルシステム (株)	1	東京湾横断道路 (株)	1
サントリープロダクツ (株)	1	サントリープロダクツ (株)	1	セイコーインスツル (株)	1	(株) サクラ	1	一般財団法人成田国際振興協会	1
ソニーグローバルマニュファク	1	(株) ジュピターコーポレーション	1	ダイキン工業	1	(株) メンバーズ	3	日鉄防食 (株)	1

チャリング&オペレーションズ(株)		ン		(株)					
千葉県下水道公社	1	成田空港給油施設(株)	1	テルモ(株)	1	(株) モバイルファクトリー	1	日本交通技術(株)	1
テルモ(株)	1	日産自動車(株)	1	東亜建設工業(株)	1	富士通クライアントコンピューティング(株)	1	長谷川体育施設(株)	1
東海旅客鉄道(株)	1	パナソニック(株) アプライアンス社	1	パナソニック(株) インダストリアルソリューションズ社	1			東日本電信電話(株)	1
成田空港給油施設(株)	1	パナソニックシステムソリューションズジャパン(株)	1	ヒダン(株)	1			東日本旅客鉄道(株)	1
(株) 日立ビルシステム	1	三井化学(株)	1	フジテック(株)	1			東京都	1
ファナック(株)	1	三井不動産(株)	1	ホソカワミクロン(株)	2			横浜市	1
本田技研工業(株)	1	森ビル(株)	1	三菱電機ビルテクノサービス(株)	1			木更津市	2
丸善石油化学(株)	1	理研ビタミン(株)	1	(株) ミューシグナル	1			袖ヶ浦市	1
日鉄環境(株)	1			日本企画(株)	1				
日本空港テクノ(株)	1			不二製油(株)	1				
				矢崎総業(株)	1				

	26		23		24		16		22
--	----	--	----	--	----	--	----	--	----

表 10 令和元年度専攻科卒業生の就職状況

機械・電子システム工学専攻	人数	制御・情報システム工学専攻	人数	環境建設工学専攻	人数
コスモ工機 (株)	1	(株) ゆめみ	1	東日本旅客鉄道 (株)	1
(株) アマダホールディングス	1	出光興産 (株)	1	千葉県庁 土木上級	1
本田技研工業 (株)	1	(株) スカイアーチネットワークス	1	千葉県役所 土木上級	1
(株) 荏原製作所	1	(株) エム・ソフト	1	君津市役所 土木上級	1
AGC (株)	1	(株) 富士通システムズアプリケーション&サポート	1		
		エヌ次元 (株)	1		
		(株) ALBERT	1		
		エスエイティーティー (株)	1		
		ボッシュ (株)	1		
計	5	計	9	計	4